



勇気を翼に込めて!

いよいよ今週末が「卒業式」。皆さんの力で、中学校生活の3年間を締めくくる素晴らしい式にしたいですね。

さて、卒業式でよく歌われる「旅立ちの日に」は、埼玉県にある秩父市立影森中学校で1991年に誕生しました。作詞は、当時の校長先生、作曲は音楽の先生です。お二人とも同じ時期に影森中学校に赴任しましたが、当時の学校は「荒れた学校」だったそうです。作曲をした高橋（旧姓坂本）浩美先生は、赴任して

「旅立ちの日に」 小嶋 登 作詞・坂本 浩美 作曲

白い光の中に 山並みは萌えて はらかな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ 自由をかける鳥よ 振り返ることもせず
勇気を翼に込めて 希望の風に乗る この広い大空に 夢を託して

懐かしい友の声 心とよみがえる 意味もないいさかいに 泣いたあの時
心通った嬉しさに 抱き合った日よ みんな過ぎたけれど 思い出強くだいて
勇気を翼に込めて 希望の風に乗る この広い大空に 夢を託して

今 別れの時 飛び立とう 未来信じて はずむ 若い力 信じて
この広い この広い 大空に

今 別れの時 飛び立とう 未来信じて はずむ 若い力 信じて
この広い この広い 大空に

初めての始業式で校歌の指揮をして、その時の声がとても寂しく感じられました。そこで、作詞をした小嶋校長先生をはじめ先生方で「歌声の響く学校にしよう」と歌を中心に学校づくりを始めました。その取り組みが実った3年後、校長先生が退職される年に、3年間共に過ごしてきた子どもたちに「ありがとう」という気持ちを込めて何かをプレゼントしようと高橋先生がこの歌をつくろうと思立ちました。そこで、歌詞を校長先生に書いてほしいとお願いすると「センスがないから無理だよ」と断られたのですが、翌朝高橋先生の机に歌詞が置かれてあったそうです。とても素敵な詞だったので早速作曲をしようとしたとき、「勇気を翼に込めて」という部分の曲が天から降りてきたように湧き上がり、15分ほどで「旅立ちの日に」の歌が完成したそうです。その後、先生たちで歌って生徒へのプレゼントとしたのですが、この歌がロコミなどで広まり、今では全国の小中学校の卒業式で歌われるようになりました。影森中学校の先生方の思いは、全国の先生方や卒業生の思いと見事に重なったのですね。

先週の木曜日、3年生の歌練習がありました。その折、3年生の合唱の素晴らしさに3年団の先生方は思わず目頭が熱くなり涙したそうです。卒業式当日も、きっと素晴らしい合唱が体育館に響き渡ることでしょ。

梅の花がほころび始めました



詫間中学校玄関の左側にある庭園に、梅がほころび始めました。先日、この梅がまだ咲いていない時分に、一人のおばあさんがこの梅を見にいらっしやいました。お話をお伺いすると、おばあさんは詫中の第4回卒業生だそうです（今から64年前）。そしておばあさんの学年の人たちが29年前に同窓会を行ったときに記念植樹で植えたのが、この梅の木だそうです。それから、おばあさんは、梅の花が咲くのが楽しみで、近くに来たときに見守っているとのことでした。

今年度、詫間中学校は68回目の卒業式です。68年分の卒業生がいるのです。その数、今年卒業する皆さんを合わせて、なんと1万4200人。ほぼ詫間町全体の人口と同じくらいになります。こんな大勢の人が詫間中学校で学んで卒業していったのですね。詫間中学校に歴史あり。梅の花は今年も私たちを見守ってくれています。